

良好なコミュニケーションを追究し、社会やキャリア教育に還元したい。



心理学部 小川一美 准教授

【学歴】
 1996年3月 三重大学教育学部小学校教員養成課程卒業
 1998年3月 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程前期課程修了 修士（教育心理学）
 2002年3月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学博士（心理学）（名古屋大学）
 2007年3月
 【職歴】
 2002年5月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部助手
 2002年11月 大同工業大学教養部講師
 2004年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部講師
 2007年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部准教授
 2010年4月 愛知淑徳大学心理学部准教授

小川先生は子どもの頃から人の話し方や口調に興味があり、故廣岡秀一先生（愛知淑徳大学助教授）三重大学教授の勧めで、日常の会話を大学院の研究テーマとすることに。社会心理学における対人コミュニケーションの分野でも、先生のように二者間の会話行動を扱うことは珍しいそうです。先生は、「おそらく日本では、多くの言葉を必要としない『察しの文化』があったため、コミュニケーション研究があまり注目されてこなかったのでは」と独自に推察。現在は社会がグローバル化してコミュニケーション力の必要性が高まり、小川先生の研究は国の助成金を獲得するなど、多方面から期待を集めています。「良好なコミュニケーションとは何か」は一生のテーマ。「コミュニケーションで悩む人が減り、皆がハッピーになれるような知見を突き詰めたい。そのために小さな研究を積み重ねていきたいですね」と今後の抱負を話していただきました。

専

門は社会心理学です。その中でも、対人コミュニケーション

（個人間のコミュニケーション）に関する研究を行っています。私たちは「話す」「聴く」という行為に非常に多くの時間を割いています。だからこそ、対人関係において会話もたらず影響力は大きいと考えています。心地よい会話ができる相手とは親密になる可能性が高いでしょうし、ストレスなく会話ができる相手とは一緒に仕事をしたいと思えるでしょう。そこで、豊かな対人関係を築くための対人コミュニケーションとはどのようなものであるかを、実験や調査を通して科学的に検討しています。

また最近では、コミュニケーション力に関する研究も行っています。企業をはじめ中央省庁までもが

- 【小川先生の主要著作リスト】
 （全て共著）
 ○「展望 現代の社会心理学2—コミュニケーションと対人関係—」誠信書房 2010年
 ○「体験で学ぶ社会心理学」ナカニシヤ出版 2010年
 ○「心理学概説—こころを科学する—」ナカニシヤ出版 2010年
 ○「関係とコミュニケーション—講座社会言語科学第3巻—」ひつじ書房 2009年
 ○「ことばのコミュニケーション—対人関係のレトリック—」ナカニシヤ出版 2007年



「コミュニケーション力が重要」と声高に叫んでいるにもかかわらず、そもそもコミュニケーション力とはどのような力なのかということが明確にされていないのが現状です。そこで、コミュニケーション力と呼ばれるものの概念を整理・検討したり、測定尺度の作成を試みたりしています。その上で、大学生に求められているコミュニケーション力とはどのようなものか、そして育成するにはどのような働きかけが効果的かといったことを、科学研究費補助金（課題名・知識と経験が大学生のコミュニケーション力に及ぼす効果）や本学の研究助成を受けながら研究しています。昨年は、同窓生の一部の皆様にも郵送調査にご協力いただき、1400名程の方からご回答いただきました。多くの同窓生の皆様からデータと共に「後輩たちの役に立って欲しい」というメッセージも受け取りました。学生たちに先輩たちの想いを届けるためにも、現在、データを鋭意分析中です。

心

理学的研究では、仮説を立てて、実験や調査等を通してデータを収集し、それを客観的に分析し、論理的に考察していきます。このプロセスは社会人基礎力につながる有益なものだと私は思っています。心理学部の学生たちが卒論研究を通して、論理的思考、分析的思考、コミュニケーション力を養ってくれることを強く願っています。